

会 長/小 松 昭 二
幹 事/田 辺 豊
会報委員長/豊 島 幸 枝

創 立/昭和38年10月2日
例会日/水曜日 12:30～13:30
例会場/新ロイヤルホテル四万十
事務所/四万十市中村小姓町46番地 中村商工会館2F
TEL 0880-35-4551 FAX 0880-35-4553
●ホームページ <http://www.nakamura-rc.com/>

週報 No.2740

第2871回 令和5年3月22日（曇り）

本日のプログラム：ゲストスピーチ 木戸 孝子様（写真家）

3月29日(水)：休会（定款第7条 第1節）

4月5日(水)：会員スピーチ PETS・DTTS報告

【会長挨拶】稲田玲子会長エレクト

- ・まずは本日のゲストの紹介です。写真家の木戸孝子様です。佐藤厚志氏の芥川賞受賞作『荒地の家族』の表紙は木戸様の写真です。木戸様は、昨年末に帰郷し、現在は四万十市在住です。中村高等学校ご卒業で、上野会員と同級生だそうです。本日のスピーチよろしくお願いします。
- ・昨日のWBCの決勝戦はすごかったですね。3-2でアメリカに勝ち優勝しました。20日のメキシコ戦での9回裏の逆転劇といい、本当に興奮しました。野球は普段観ませんが、ダルビッシュや大谷選手など、世界の球界のスーパースターが登場し、大変楽しませていただきました。また、春の甲子園球場では、高知高校が2回戦で勝っています。誠に嬉しいニュースが続いています。

【幹事報告】田辺 豊 幹事

- ・ロータリー米山記念奨学会より
ハイライトよねやま 276号 配信

- ・2021-2022年度地区ライラ委員会より
第42回RYLAセミナー報告書拝受
- ・八尾東RCより
創立50周年記念式典出席のお礼状 拝受
- ・3月26日は2023-24年度PETS・DTTSが徳島で開催されます。稲田会長、東パストガバナー、松田財務委員、一藤地区委員、明神地区委員、よろしくお願いします。
- ・4月16日は地区研修・協議会が徳島で開催。
出席義務者の皆様にはよろしくお願いします。
- ・来週、29日は休会です（定款第7条第1節）



例会風景(木戸孝子氏スピーチ)



【本日のプログラム】 ゲストスピーチ 木戸 孝子様（写真家）



東日本大震災の10年を追って

こんにちは、写真家の木戸孝子です。お話する機会を頂いてとても感謝しています。

12年目の3月11日が過ぎました。今日は私の作品を見て頂きながら、東日本大震災の事をいろいろお話していきます。

私は地震発生から4日後の15日に、名取市閑上に入りました。本当にめちゃくちゃで、何を撮ったらいいのかわからないし、その前に、ここで写真を撮ってもいいのか？という状態でした。でもいざ撮り始めたら、ここに住む写真家として撮らなければならない、という責任のようなものを感じました。（※説明しながらスライド参照）

7月11日の七ヶ浜です。『荒地の家族』のカバーになった写真です。この頃の七ヶ浜には流されて来たコンテナがゴロゴロ転がっていました。この写真を撮った日に梅雨が明けて、海もガレキも真っ赤な夕日に染まっていました。目の前にあるのは壊れたものばかり。でも“何物にも壊せない美しいもの”が確かにそこにありました。そして“カオスの中の秩序のようなもの”があることに気が付き始めました。

その頃から、きれいな写真が増えてきました。最初は、被災地できれいと思っていいのか？と思いましたが、でもこの心の声は固定観念であり偏見だと思いました。私は、偏見の声は聞かずに、自分の目で見たもの、そこで実際に感じたものを撮り続けることにしました。

そして、だんだんと、エネルギーの事を考えるようになりました。“エネルギーは壊されることも創られることもない。ただ形を変えて存在し続ける”、これがエネルギー保存の法則です。私たち人間もエネルギー体ですね。ということは、被災地は、津波で突然命を奪われた人たちのエネル

ギーでいっぱいではないだろうか？私が被災地で見た、何物にも壊せない美しさは、亡くなった人たちの命のエネルギーの美しさじゃないだろうか？と考えるようになりました。

その頃の被災地には、希望とか復興とかそんなものはありませんでした。そんな事を口に出す方が非常識な状態でした。そんな悲しみが充満した被災地で、私自身が生命の永遠性を信じたかったし、そこに希望、と呼べるような何かを見つけたかった。それで撮り続けたと思います。

釜石では、子供たちに防災教育をしっかり教えて来たそうです。なので釜石市立の小中学校全校生徒、約3千人全員が無事でした。釜石の奇跡、と呼ばれてます。3つ大事な事があるそうです。

1. 想定を信じるな
2. その状況下で最善の避難を取ること
3. 率先して避難せよ

被災地でずっと死と向き合ってた来ましたが、子供が生まれたら今度は生の爆発のようでした。生と死は、どちらも向き合うのに同じ労力がいるという事を知って、しばらくの間は子育てに専念する事にしました。

その後、2020年にはスケボーパークができ、だんだんと被災地には家族で遊べる場所が増えてきました。閑上の朝市も復活しました。現在、どんどん変わって行く被災地ですが、まったく変わっていない場所もあります。（※写真説明）

被災地の人たちは、たくさんの人に来てほしいと思っています。荒浜小学校など、震災を伝えるためにあえてそのまま残している建物や家などもあります。震災の時から変わったもの、変わっていないもの、両方見てほしいと思います。

私は震災の後、撮影しながら、高知も同じ事になる、他人事じゃないと何回も思っていました。東日本大震災が南海トラフより先に来たことによって、東北の人が命をかけて高知県の人を助けてくれる事になる、と私は思っています。皆様にも避難訓練をやって頂きたい。日頃から、どこに逃げるか、どういう行動をするか、という事を頭に入れていたら、全然違うと思います。

今日は本当にありがとうございました。

【ニコニコ箱】

佐竹会員：弘内 クニトラ様、ありがとうございました。

豊島会員・上野会員：木戸さん、スピーチありがとうございました。

【出席報告】 ・会員総数55名（免除会員6名）

・本日の出席/32名 69.57%

・先々週の訂正

MU2 64.74%→69.57%